

平成29年度学校評価書

北海道知内高等学校

目指す学校像	目指す生徒像
1 地域に信頼され選ばれる学校	1 礼節を尊び、豊かな人間関係を大切にする生徒
2 生徒の可能性を高める学校	2 豊かな感性と思いやりの心を持ち、行動する生徒
3 豊かな人間性を育む学校	3 意欲と根性で目標に向かって挑戦し、やり抜く生徒

自己評価結果及び学校関係者評価(A:十分である B:おおむね十分である C:不十分である D:改善を要する)

領域	対象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点	評価	改善・充実の方策	学校関係者評価	
教育活動	学習指導	基礎的・基本的学力の定着・学習習慣の確立・進路実現に向けた学力の向上	①コース制や習熟度別授業等による進路実現に向けた学力の保証	1 アカデミック・生徒の実態や進路希望に応じた授業を展開するための授業改善が行われたか。	B	ベーシックの資格取得など、学力の低い生徒への対応について上がっている。昨年度の反省にあった特別支援委員会、学習支援員との連携と定期的な個人放課後学習個々のレベルに応じた検定の選択や、授業、講習などの細かな指導の成果であると考えられる。家庭学習においても、特に長期休業中の課題を出すことで家庭学習の習慣化や休み明けの課題テストに向けた取組も継続し、平素における本格的な家庭学習の必要性も啓蒙したことで上がっている。今後はより高いレベルの大学を目指す生徒への対応ができるアカデミックや習熟度の授業展開をしていく必要がある。また平成30年度入学生からはコース制が変更になり、事前の対応が必要である。	B	
			②家庭学習の推進	2 ベーシック・生徒の進路希望に応じた検定・資格の取得を推進し、昨年度よりも検定等の合格者が増えたか。	B			
			③日常的な学習習慣を確立させるような指導方法を各教科で検討し、段階的に取り入れることができたか。	3	B			
	生徒指導	安心安全な学校生活 良好な人間関係の形成	①いじめ防止対策の充実	4 学校いじめ基本方針に基づき、いじめ防止委員会が中心となって組織的な取組を行うことができたか。	B		B	昨年の反省を生かし、生徒主導で行事が行われてきている。さらに生徒に自発的に行動させるために任せることを重点に計画していきたい。いじめについてはのが数年続いているが、油断せずに教育相談などの充実を力に注ぎたい。
			②学校行事の充実	5 生徒が主体的に行事を運営することによって、達成感、満足感を得られたか。	A			
	進路指導	進路決定率100%	①キャリア教育の推進とガイダンス機能の充実	6 進路シラバスの工夫・改善により、適切な情報提供や支援を生徒や学年に行えたか。	B		A	進路指導部主導で計画的な進路指導が行われ、きめ細かな対応ができた。ここ数年の進路決定率がほぼ100%であることは、学校の信頼や安心感にもつながると思われ、生徒募集の大きな要素の一つにもなっている。またセンター試験受験者が8名と、進学への意欲も向上している。今年度1/20現在では教育大学の合格者が1名おり、次年度も生徒の資質(学力や学習への姿勢、家庭状況など)を見極め、適切な進学先を目指す指導や早い段階で進路意識向上に向けた指導や進路指導部主体での計画的な面接指導、書類の書き方、企業・学校開拓などが必要である。特に公務員希望者が多く、外部講師を視野に入れながら講習など積極的な実施をしていきたい。
			②進学者向けの講習体制の確立	7 各教科・分野との連携により、講習や個別指導を適切に行えたか。また、受講者の人数を増やす工夫を行えたか。	A			
	健康安全指導	心身の健康増進 安全意識の向上	①教育相談の充実	8 教育相談週間や日常的な対話を通し全教職員が生徒理解に努め、生徒の悩みや不安を解消できたか。	B		B	生徒指導事故の未然防止や事故の対応(特に初動)について連絡体制や協働体制がなされてきた。日頃から生徒の小さな変化に気づくことを心がけ、生徒や保護者との関係づくりをしており、学校や教職員に相談しやすい雰囲気をつくることできている。 不登校や特別支援対象生徒への適切な指導や保護者、関係機関との連携をより密にし、より豊かな学校生活を送ることができるように計画的に実施する。
			②生き方に関わる指導の充実	9 日常的な指導と外部講師による講話などを活用し、年間を通して指導することができたか。	B			

・新しい教育課程の編成や、進路の指導について、結果がでていることが素晴らしい。次年度は、進路先への事後調査や会社訪問を積極的に実施し、信頼関係を築くと共に、地域との連携を密にした人間教育を行ってほしい。

学校関係者意見等	信頼される学校づくり	開かれた学校づくり 選ばれる学校づくり	①学校教育活動の公開推進	10 公開授業参観や行事などの見学者を増やすための実施方法の工夫・改善がなされたか。	A	学校HPを大幅に改善し、動画などの充実により、情報発信を心がけた。将来像検討委員会を設置し、学校の魅力の再構築をし、大幅な教育課程の変更や次年度に向けた総合学習(地域創生学習)の考案。学校説明会や近隣中学校への進学説明会、道内各地への中学校訪問はもとより、特に平成30年度より全国公募となり、青森県への中学校訪問を新たに実施し、選ばれた学校を目指した。 また、初の海外見学旅行の実現と、成果報告会を2回実施し、英検受験者の大幅増など国際理解教育にも力を注いだ。 さらに1学年では学校運営協議委員会主催のソクラテスミーティングを開催し、地域と共に子どもを育てる体制が構築されてきている。 文武両道、学力向上に力を入れたことで、広く地域にも信頼を得たのではないかと感じられる。さらに本校の魅力を向上させるための進路実現のための教員個々の資質向上と、情報発信や学校運営協議会の活動を活発に行い、渡島西部の基幹校となり選ばれる高校を目指していきたい。	A	
			②学校評価の充実	11 学校運営協議会による学校関係者評価により学校改善に繋がる学校評価が実施できたか。	A			
			③入学者数の確保	12 学校説明会、中学校訪問、学校便りやHPによる情報発信の充実により、入学者数確保に努めたか。	A			
	組織運営	学校課題の解決 を推進する組織力の向上	①組織としての業務推進	14 部長・主任をリーダーとして、適切な役割分担のもと組織として分掌・学年業務を推進できたか。	A		A	分掌長や学年主任などのミドルリーダーのリーダーシップと、学校全体での情報共有が密に行われた結果だと感じる。 また、会議議題の精査や効率化についても整理され、無駄なく開催されていることや、教職員全体の雰囲気もよく、それが子どもたちの落ち着いた学校生活や事故の減少に大きな影響を与えている。 今後は、行事の精選を中心に、より整理し、魅力ある新しい学校づくりを進めていきたい。
			②情報共有の推進	15 分掌・学年の枠を超え、学校全体として情報を共有できたか。	A			
			③会議の効率化	16 分掌会議や校務運営会議における議題の精査、論点の焦点化により効率的な職員会議を行ったか。	A			
	教職員の資質向上	専門性を高めるための研修の充実	①授業力向上の推進	18 生徒による授業評価の改善を図り、その結果を授業改善に生かすことができたか。	B		B	町立高校の強みを生かした研修の充実は道立高校とは比較にならない。経験の少ない若手教員への校内研修コーディネーターによる授業改善や校内研修の充実が図られ、また教員個々の専門性を高め、授業力を向上させるために、町内他校種との連携や公開授業などで得た成果を最大限に子どもたちへ還元できる体制がつけられている。 さらに、他校種への乗り入れ授業や教科横断的な授業の取組を積極的に行い、生徒の自主性や人間力を高められる教員集団を目指す。
			②校内研修の充実	19 外部講師を招いての研修や職員による研修の企画などにより学校課題解決を図るための実効性のある研修会を実施できたか。	B			
			③校外研修への参加と研修成果の共有	20 教科指導セミナー等への積極的な参加と事後の研修報告による情報の共有がなされたか。	B			

・年々、確実に成果が上がっているのが見える。次年度も「地域創生学習」を中心に学校の魅力を向上させ、子どもたちによりよい教育をお願いしたい。そのために協力は惜しみません。